

# 知事記者会見の概要

日 時：令和3年2月9日(火) 10:00～10:37

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

- (1) 「今冬の大雪等による農業被害緊急対策パッケージ」の発動について

### 代表質問

- (1) 新型コロナのワクチン接種について

### フリー質問

- (1) 東北公益文科大学の公立化の検討について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 東京オリンピック・パラリンピック組織委員会 森喜朗会長の発言について
- (4) 山形鉄道の支援等に係る報道について

<幹事社：河北・共同・TUY>

## ☆報告事項

### 知事

皆さん、おはようございます。

まず、新型コロナでありますけれども、県内の新規感染者数は、昨日までで 526 人となっております。そして、昨日まで連続 2 日間ゼロということになって、ちょっとほっとしておりますけれども、ですが、まだまだ油断はできないというふうに思っております。そして、3 月にはですね、卒業式とか謝恩会といった、平年であれば開催されるそういう行事がございますので、そういったことがしっかり開催されるようになるためにも、開催できるようになる、していくためにも、しっかりと今のうちに感染を封じ込めるということが大事だというふうに思っております。そこで、県民の皆様には、改めて基本的な感染防止対策をお願いしたいというふうに思っております。

これは前から申し上げておりますが、緊急事態宣言がですね、延長ということになりましたので、その対象区域との不要不急の往来は引き続き控えていただきたいと思っております。10 都府県でございます。

それからもう一つは、新規感染者数が多い地域との往来は慎重にさせていただくようお願いいたします。現在のところ沖縄県だけとなりました。

それからですね、改めて「県外の方との会食や飲食は控えてください」と申し上げます。それから会食や飲食をする場合は、「普段一緒にいる人と、少人数・短時間で」、そして「飲酒を伴うカラオケは控えてください」ということを改めてお願いしたいと思います。

次に、インフルエンザなのですが、昨日 2 月 8 日、今シーズン初めて、学校等におけるインフルエンザの集団発生が確認されました。県民の皆様にはこまめな手洗いや咳エチケットの励行など、感染予防に心がけてくださるようお願いいたします。

私から発表が 1 点だけございます。

今冬の大雪等による農業被害に対する緊急支援策について、発表いたします。

この冬は、例年よりも早い 12 月中旬から大雪に見舞われました。12 月 14 日からの大雪では、村山地域を中心に大きな被害が発生しました。県ではこれを受けて、パイプハウス等の再建や修繕、補植用苗木などの購入に対して支援を行う山形県農林水産物等災害対策事業などを 12 月 25 日に発動したところです。

しかしその後も、断続的に続く大雪や暴風雪などにより、庄内地域でパイプハウスなどの倒壊が多数発生するなど、農業被害が拡大しており、被災農業者の営農意欲の低下、ひいては農業生産の減退を懸念する声が多く寄せられております。こうした声を受けまして、先月 29 日、本県が提案県となって、北海道東北地方知事会として、政府に対して、大雪等による農業被害に関する緊急要望活動を実施しました。そうしたところ、2 月 2 日、政府から、「令和 2 年から 3 年までの冬期の大雪に係る支援対策」が示されました。この政府の支

援策を最大限活用していくことはもちろん、政府支援の対象外とされている農業者の取り組みや、農作業道の除雪などを支援する本県独自の対策を合わせて講じることにより、被災農業者の営農意欲の低下を防止し、農業生産の維持向上を図っていくことといたしました。

皆様のお手元に資料を配布させてもらっていますけれども、その資料1をご覧ください。赤の点線囲みの12月に発動した県単独の支援策、そして薄い青が塗ってあるところは、政府の支援策であります。それに加えて、赤の実線で囲んでいる部分について、市町村及びJAとの連携・協調による緊急対策を「今冬の大雪等による農業被害緊急対策パッケージ」として追加し、本日2月9日付けで発動することといたします。

具体的には、左側中ほどの赤い実線の部分、ここはですね、パイプハウス等の復旧に係る農家負担の軽減に向けて、政府の支援策に、県と市町村による嵩上げ支援を行います。

それから次に、中ほどの下の赤の実線の部分ですけれども、ここは、政府の支援対象とならない農家の方を対象に、これまで県の支援対象となっていなかった耐用年数を経過したパイプハウス等の復旧や、損壊したパイプハウス等の撤去を新たに支援いたします。

それから右端のですね、赤い実線の農作業道除雪ですけれども、被災農業用施設等の早期撤去・復旧や、樹園地の枝折れや果樹棚・パイプハウス倒壊等の被害の未然防止に向け、農作業道の除雪費用を新たに支援いたします。

県としましては、この度の大雪などの被害の中にありましても、農業者の皆様が営農意欲を持って復旧に取り組まれるよう、市町村やJA等の農業関係団体と連携をとりながら、引き続き、しっかりと支援してまいります。

私からは以上です。

## ☆代表質問

### 記者

テレビユー山形の結城と申します。お世話になっております。来月からワクチン接種がですね、医療従事者を皮切りにスタートして、4月以降本格的に県民への接種が始まるという流れになるかと思えますけれども、そのワクチン接種では、実施主体となる、実際に実働部隊として動いていただく各市町村との連携が必須になります。今後の連携をどう進めていかれるのか、そして現状考えていらっしゃる課題は何なのか。その課題をどのように解決されていくのか、また、今後のスケジュール感みたいなものを改めてお伺いしたいと思います。よろしく願いいたします。

### 知事

はい。今回のワクチン接種につきましては、16歳以上の県民94万人が接種対象となるビッグプロジェクトであります。ワクチン接種は予防接種法に基づき、市町村が実施主体となりますが、県民の皆さんが円滑に接種を受けられるよう、県として、市町村業務の総合調整を図ってまいります。そのため、先月には、「山形県新型コロナウイルスワクチン接種総合本部」、

そして今月の1日には、「新型コロナワクチン接種総合企画課」を立ち上げました。その準備体制を整えたところでもあります。現在、県が中心となって、医療従事者等への優先接種に向けた体制整備を構築中でもあります。その後は、市町村が中心となって高齢者をはじめ、住民の方々への接種を順次行っていくこととなります。市町村は、まさに今、その準備を本格化させていることと思います。市町村から寄せられる相談内容によりますと、集団接種会場における医師や看護師、受付スタッフの確保ですとか、地域の病院・診療所での接種への協力が不安があるなどの課題をお聞きしているところでもあります。県としましては、市町村と緊密に連携しながら、医療従事者の確保や医療機関の協力について、医師会や医療機関との調整にしっかりと取り組んでまいります。

なお、さっそく先週の5日には、現在の課題を踏まえた協力体制等について、医師会と打ち合わせを行いました。そして、今週の12日には、市町村担当者とのWeb会議を開催して、県の取組状況の報告や課題の共有、また県と市町村の連携体制の確認などを行っていく予定であります。そういうことを担当部局から報告を受けております。

今後、3月中旬から医療従事者等への優先接種、4月以降には高齢者をはじめとする県民の皆さんへの接種というスケジュールになりますが、政府からの通知や情報を注視し、随時こうした会議や打ち合わせを行ってまいります。立ち遅れる市町村が決して無いように、しっかりと政府・市町村と連携しながら進めてまいります。

記者

ありがとうございます。加えてお伺いしたいのですが、具体的に各市町村から今、相談が寄せられているものの中で、例えば、各市町村によって状況、医師の状況ですとか、接種場所として確保できるスペースであるとか、いろいろな問題が出てくるかと思うのですが、今挙げられている不安ですとか、疑問ですとかで、大きく今、どうでしょう、対応が必要になっていると感じられているところは何かございますでしょうか。

知事

はい。先ほど申し上げたように、やはり人員の確保そして、医療機関の接種への協力、そこに不安があるということをお聞きしているところです。

記者

まだ、今情報を集めていらっしゃる途中だと思うのですが、具体的に解決に向けて何かこう、イメージされていることですとか、動き出しているものがあるかもしれないのですが、今のところまだ何もないのでしょうか。

知事

そうですね。やはり、12日にWeb会議で行いますので、そこでいろいろなお話が出るの

ではないかと思えます。そこでそれを踏まえてと言いますか、その課題解決、不安払拭といったことを行っていきたいというふうに思っております。

記者

はい、わかりました。ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

荘内日報、松田です。よろしく申し上げます。先日、東北公益文化大の公立化について、酒田市へ、検討組織の設立準備の停止を伝えた件についてお聞きします。

吉村知事が、当選後の酒田市で行われた県政報告会で、この設立準備停止について「寝耳に水」と発言されておりましたが、これは知事が指示したことではなくて、担当部局が決定した、判断したことと捉えてよろしいのでしょうか。

知事

決定とか判断とかちょっと分からない、話し合いをずっと、それまでも続けてきたと聞きました。それでその中の一環だということで、停止というようなことは全然申し上げていないというふうに聞いているところです。

記者

設立準備を停止とは伝えていないのですか。

知事

いや、停止ということは全然申し上げていないということで、今までいろんなことを担当レベルで話し合ってきた中での一つの、その中での一環のことだというふうに聞いていて、その準備を停止するとかですね、そういったことではないというふうに私は聞きましたので。だから停止という言葉は全然使っていないので、どこからそういう言葉が出てきたのかなというふうに思っています。さまざまな誤解が生じたのかなというふうに思っております。ですけれどもですね、それは 25 日というと本当に選挙投開票が終わった次の日でありまして、だからいろいろな憶測がですね、そこに生まれたのかなという気が私にはしております、まずそういうことは、選挙は選挙で終わったので、これからちゃんと前向きにですね、きちんと進めていければというふうに思っているところです。

記者

そうしますと、じゃあ担当部局同士のやり取りの間で何かしら誤解が生まれたということでしょうか。特にそういった設立準備が遅れるとかそういったことはないのでしょうか。

知事

そうですね、ずっと話し合いをしてきたその一環のことだと聞いているので、特段そういうことはないのではないかとこのように私は思っています。大枠は全く変わっていないというふうに考えています。

記者

そうするとこの中でなぜこの設立準備停止という言葉が出てきたのか、それは受け止める酒田市のほうにも何か聞き違いがあったということによろしいでしょうか。

知事

いや、だから私はどちらが、県のほうでですね、停止などということは申し上げていないということを聞いていますので、投開票の翌日というようなことを考えると、そういう憶測にもつながったのかなというふうに感じたところです。だから一言一言をどうだったかということではなくて、私が担当から聞いているのでは、停止というようなことでは申し上げていないということなので、そういうことですね。だから誰がどうしたということではないのですけれども、もうそこでのそのすれ違いと言いますかそういったことではなくて、これから前を向いてお互いに連携を取っていくということによろしいのではないかと思います。

記者

分かりました。それではですね、ちょっとちゃんと再確認したいのですけれども、なぜこの停止というのが出るようなことになったのか、どういう伝え方、何を酒田市のほうにこの公立化について伝えたのかをちょっと確認できますでしょうか。

知事

その具体的な内容ですか。内容は、はい、担当でないとちょっとと思いますので、ただ停止などということは申し上げていないと聞いているので。それについては後ほどじゃあ担当のほうからということをお願いしたいと思います。

記者

はい、了解いたしました。ありがとうございます。

記者

共同通信の阪口です。お世話になります。あまり女性の知事に年齢のことを言うのはあれなのですけれども、知事も一応高齢者という部類に入られると思うのですが、ワクチン

接種、いちばん最初に、医療従事者の次になると思います。知事自身は順番が回ってこられたらですね、いろいろ不安とか世間では聞きますけれども、接種される予定はございませんでしょうか。

知事

私自身のことですか。

記者

はい。

知事

はい。私自身は接種することとしたいというふうに考えています。私のところで何かちょっと迷ったりすると県民の皆さんもね、いろいろ不安があるというようなことになってもいけませんし、私は接種するというふうにしていきたいと思います。

記者

ありがとうございます。加えてワクチンに関してなのですが、これは基礎自治体のほうはかなり考えることではあると思うのですが、接種する場所ですね、集団接種ということが大方針で示された中で、今この個別接種ということがかなり大きく言われております。方針が揺れているようにも見えるのですが、国のこういったワクチンに対する政策の姿勢ですね、まだ情報が出てきていないという面もあると思いますけれども、こういった姿勢全般に対して知事はどのように評価していらっしゃいますでしょうか。

知事

そうですね、本当にビッグプロジェクトで大変なことはよく分かりますし、また外国とのそのワクチンそのもののね、調達がどうなっているのかなという心配はありますけれども、いろいろと色々な状況があって、情報がなかなか取れないのかなというふうに思いますけれども、できる限り早くいろんな情報をこちらにいただければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。あともう一つ話題が変わりますけれども、東京オリンピックの組織委員会の森会長がですね、女性蔑視発言ということがございました。菅首相からも「国益に芳しくない」というふうに昨日国会で答弁されておったりですね、各社の世論調査でもですね、「森会長が適任じゃない」という声が多く占めるような結果になっています。全国で女性知事は小池知事と知事しかいらっしゃらないと思いますけれども、しかもこの

県は知事選も女性対決という形ですね、女性の活躍がある意味進んでいるという面もあるんじゃないかなと思うのですけれども、知事としての受止めはいかがでしょうか。

知事

そうですね、最初はその発言を報道で知ったわけですが、正直言ってびっくりいたしました。私は性別には関係ないというふうに思っています。山形県では審議会の女性委員登用ということで非常に熱心に取り組んできまして、今女性委員が5割以上というのが84ほどあるのですけれども、どのくらいあるかなと思って聞いてみたら84ほどあるということでもあります。女性が半分以上だからといって全く問題ありません。そういったこともありますので、女性委員がっていうふうに一括してね、そのようにおっしゃったことに対してはやっぱりちょっと、非常に違和感を覚えたと言いますか、そういうところですね。やっぱり男女共同参画社会ということのためにもですね、そういったことは、あのご発言というのはやはり、的を射ていないと言うか、私としてはやはりそういうふうな表現というのは、よろしくないなというふうに思いました。

記者

加えて、森会長、五輪についてはいろいろ開催できるかどうかというアスリートの不安とか我々一般からの不安とかもあると思うのですけれども、そんな中こういう発言が出て国際的に非難を浴びています。森会長自身がこの組織委のトップにいるということに関しては、適切だと思われるかどうかを伺えればと思います。

知事

うん、そうですね、やっぱり組織委員会が判断されることだというふうに思っています。

記者

日本経済新聞の浅山です。先ほど荘内日報さんがおっしゃっていた件なのですが、公益文化大の件もありますが、あと山形鉄道の関係でもですね、地元が期待していた、でも一方的に思い込んでいたのかもしれませんが、そういう支援があるというのが選挙の後にですね、やっぱり難しそうになるということを伺ったという話もありました。これらは知事としては基本的にそういうことにはタッチされていないということかと思うのですが、やはり選挙直後ということにそういうことがあるとですね、なおかつそれらの自治体はある種対立候補をですね、推していた首長さんだと。というとやはりそういう誤解であるとかですね、憶測を招くのは、当然そういうものがあるかと思えます。それに対しては知事としては何か、やっぱりこういう誤解を与えることが、組織としてですね、問題があったのかどうなのか、何かお考えはおありでしょうか。



知事

問題と言われましても、公文大については先ほどお答えしましたし、その山鉄、フラワー一長井線ですけれども、そのところもですね、やっぱり選挙直後というようなことで、本当に私自身、何て言うんでしょうかね、もう本当に、その2点についてはちょっと驚いたというところでありましたので、やはりどういう内容だったのか分かりませんがやはり憶測を生んだのかなということは思います。それで、適切かそうでないかと言われましても、そういったこと自体がね、なぜ起こったのかと言われましてもちょっと分からないのですけれども、でも実際私が今分かっておりますのは、この山鉄についてはですね、今、補正予算を含めてね、検討している、そういう段階ですので、それが実際のところあります。前向きにですね、やはり検討していくということで、そういうことでご理解をいただきたいというふうに思っています。

記者

いえいえ、その事業自体の内容ではなくてですね、やはりそういう、ある種の脅しとも取られかねないようなですね、ことが選挙の後にですね、当該事業についてですね、何か見直しを示唆する、もしくは実際にそういう事業停止というふうにですね、相手が受け取られかねないことをですね、が今回、選挙直後に起こると、このこと自体はその山鉄の支援がどうこうかですね、公立化がどうこうという以前にですね、その誤解を招いたこと自体がやはりかなり、ちょっと異質なことはないかと一般的には思われるかと思うのですが、そこは知事は。

知事

そうですね。でも本当に投開票の翌日にいろんなことが起きたというか、私自身は本当に選挙終わってその翌日で、またバタバタしていたというような状況でありましたから、憶測が憶測を生んだというのはやっぱり選挙のやはり、余波というか、そういうことだったのかなというふうに思わざるを得ないです。ですから適切とか適切でないかというよりは、やっぱり選挙がもたらした影響というかね、そういうことだったのかなと思っています。ですが、これからは選挙は選挙、県政は県政ということでありますので、皆さんには安心していただきたいというふうに思います。

記者

ありがとうございます。知事の権力者としての、あまりご自覚がないのではないかと見受けられるのですが、もう結構です。はい、ありがとうございました。

記者

今の関連で、NHKの藤井です。知事、お答えの中でどうして、なぜ起こったかわからな

いとかですね、そういうことをおっしゃっているんですけど、これ、県庁で起きたことなので、選挙の影響って言いますが、これ、選挙は選挙、県政は県政とおっしゃるけども、これ県政で起きている話なので、別に選挙の陣営であった話じゃなくて県庁内で起きた話ですよね。ですからプロセスとして、誰が決定して、どうしてそうなったかっていうのは検証できると思います。それで知事、トップですからね、それは調べようと思えば調べられるし、わからないというか、調べればわかる話だと思います。そういうのでプロセスしっかりしていただきたいんですけども、公益大の話とフラワー長井線の話は、つまり、それを連絡するに当たっての決定として、誰が決めて、それで誰が連絡したのか、そこはわかっていると思うのでちょっと明確にお答えいただきたいと思います。

知事

はい。記者さんのおっしゃることでもありますけれども、県庁で起きたと言われましても、県庁と市町村との間で起きてますので、やはり相手のあることでもありますので、そこをですね、一部始終この担当の誰が何を言って、相手がそれに対してどうしてとかね、そのようなことまでは私は検証はしないつもりです。

そういった、私が先ほど申し上げたのはその選挙の余波みたいなことで憶測を生んだかなということで、それはそれで「そんなことはないので安心してください」ということを今申し上げました。それで前向きにちゃんときちんとやっていますのでということで、余波は余波として、その後はその後で前向きに私がきちんと、犯人捜しというようなことはなくですね、きちんと前向きに県政をやっていきたいという私の姿勢です。

記者

つまり、私が聞きたいのは、部局の誰かなんてそんなことを聞きたいわけじゃなくて、要はこれ、政治的じゃないかって疑われてるわけですね。選挙の余波、つまり政治が関わってるんじゃないかっていう疑いがあるって、それが不安にさせてると思うんですね。

知事

それはないというふうに申し上げました。

記者

ええ。ですから決定主体として、例えば知事が命じたとかですね、あるいは副知事ですか、最高幹部の人が決定したのか、それとも担当部局の話なのか、そこはしっかりさせたほうが不安にならないで済むと思いますけど、それも言えないですか。

知事

それは今まで申し上げてます。担当としてのね、今まで話し合ってきていることの一環

だということだと聞いていますので、誰が指示したとかそういうことではないということです。

記者

じゃあ担当の中の話ってこと。

知事

はい。

記者

わかりました。あともう1点、飛島の米の話ですけども、米を送ったことについて、担当部局で決めた話ということでよろしいのでしょうか。

知事

飛島のは、はい、あれは確か12月のことだったと思いますので、報告は受けました。報告を受けてそれはいいことだなというふうに私も思いました。ということで、知らなかったところで起きたということではない、報告を受けたということでもあります。

記者

じゃあ担当部局の提案だったということですね。

知事

はい。

記者

さくらんぼテレビの白田です。今の公文大とフラワー長井線の関連なんですけども、話よくわからなかったのですが、まとめますと、担当者の中でやり取りしていて、選挙もあって、その選挙の後、直後ということでそういった選挙の余波というものもそこに加わって、憶測として情報が出たということ、という話伺っててそうなんですけども、ということは担当者の方々が知事への支援の状況を忖度して、知事の考えを忖度してそのように伝えたということなんですか。

知事

いや、私はそのようには思っておりません。というのは、どちらも決定とかいうことではないし、ですから忖度ということではないと思います。一連のずっと、公文大のほうですけれども、一連のことをずっと話し合ってきている中での話だったということで、停止

ということでもないと聞いていますので、だから受け取る側が感じたのかなというふうに私は受け止めたし、そういう意味で選挙というようなことが心情的に、感情的にと言いますか、一連のその話し合ってる中なんだけれども、そのように受け取られたのかなというふうに思っていますので。

記者

その今の「感情的」というのは、誰の感情なんですかね。それは県庁、県側の担当者なのか、酒田市、長井市の受け取る側の担当者の感情なのか、その「感情的」というのは誰の感情ですか。

知事

そのようにどちらかのと言われても困りますけれども、選挙というのがあるって、それに対するですね、いろいろなその、なんて言うのでしょうかね、結果が出たわけですよ、はっきりとね。だからそこでのその受止めと言いますか、何か選挙的なその影響もあったのかなと。

というのは、私とかが決定したとかそういうのは一切ないので、何しろ投開票の翌日です。ありますから、そこはもうわかっていただけだと思うんですけども、また選挙は選挙というふうに私は言っていますので、ずっとそれは言い続けてきてますから、それはわかっていると思いますので、やっぱり受止めなのかな、どちらかと言えば、というのが私の思いですね。

記者

ほかの記者も質問していましたが、すいません、しつこいんですけども、ということとは酒田市と長井市の担当者が、うちの市長は吉村知事を応援しなかったからこういうやり取りの中で停止とか支援をやめるということを感情的に考えて、そのような情報が出たということになるんですか。

知事

いや、私は、そこまでは私としてはコメントできませんね。

記者

ものすごく、多分誰も納得してないと思うんですけども、これは、知事としては別に我々に納得してもらわなくてもいいという答えなんですかね。

知事

納得と言われましてもね、本当に私も寝耳に水ということ、最初に聞いた時に報道で見

てびっくりしたというのがあったわけですから、納得と言いますか、やはり、私としてはどんなことがあったにせよですね、これからきちんと連携してやっていこうということで進めたいと思っていますので、それが私の判断です。

記者

要は、知事、この問題がいい悪いではなくてですね、こういう忖度を生んだのかもしれないと、職員の方がですね、かもしれないという誤解を与えたことに対して、これはやっぱり組織管理の問題上ですね、ちょっとまずいのではなかろうかとかですね、誤解を招いてしまった、やはり県としても何かあるのかなど。何せ知事は圧倒的な権力者でいらっしゃるわけですから、この県では。そのお考えはおありではないということなんですかね。

知事

記者さんがおっしゃっていることはですね、私、平時であってそういうことが起きればやはりそこは忖度だとか問題にしなきゃいけないと思いますけど、選挙というものがあって、戦った後の余波というようなことで受け止めれば、私は権力どうのこうのではないと思っていますので、権力者と言われましたけれども、できる限りそういったことを、私はやはりしたくないと言ったらおかしいんですけども、やはりきちんと自分を戒めながらやっていきたいというふうに思っていますので、選挙の余波ということで私は受け止めました。平時でもそういうことが起こるということであれば、やはりそれは非常にしっかりと反省してそういうことが起こらないようにしなければいけないというふうに思っています。